

本城直季 (un)real utopia

会期	2020年11月7日(土)～2021年1月24日(日)
開館時間	平日／10:00～17:00、土曜・休前日／9:30～19:00、日曜・休日／9:30～18:00 最終入館は閉館時間の30分前まで
休館日	毎週月曜日(休日の場合は翌平日) 年末年始[12/28(月)～1/4(月)]
料金	一般 800(700)円／大高生・65歳以上の方 600(500)円 ()内は20名以上の団体料金 中学生以下無料・障害者手帳をお持ちの方とその介添者(1名)は無料
主催	市原湖畔美術館[指定管理者:(株)アートフロントギャラリー]、朝日新聞社
後援	市原市教育委員会
協賛	株式会社サンエムカラー
協力	株式会社フレームマン、nap gallery
お問合せ	市原湖畔美術館 TEL:0436-98-1525 E-mail:info@lsm-ichihara.jp https://lsm-ichihara.jp/ 展覧会公式ホームページ https://honjonaoki.exhibit.jp Twitter 公式アカウント @honjo_exhibit

(un)real utopia



この世界にあなたがいる

本城直季

2020/11/07 SAT - 2021/01/24 SUN

右、左いずれも

《Ichihara, Japan》,2020 (small planet シリーズより) ©Naoki Honjo

展覧会について

大判カメラのアオリを利用して、都市の姿をジオラマのように撮影する独特の表現で知られる写真家・本城直季。

まるでミニチュアの世界のような感覚を想起させる作品は、この世界の实在と虚構を問いかけます。同時に、“まち”や“ひと”を被写体とした作品からは、人間の営みへの作家の温かく愛おしげな眼差しを感じることもできるでしょう。

本展は、2006年に第32回木村伊兵衛写真賞を受賞した「small planet」シリーズをはじめ、アフリカのサバンナを切り取った初公開シリーズ「kenya」や、住宅街の路地裏で長時間露光によって撮影された「LIGHT HOUSE」など約150点の作品を紹介。本城直季初の大規模個展として、これまでの仕事を通覧します。

加えて本展では、市原市を被写体とした本展のための特別な撮り下ろし作品も展示。写真家・本城直季の目を通して見る自らの“まち”の不思議をぜひご堪能ください。

作家プロフィール



本城直季（ほんじょうなおき）

1978年、東京都出身。東京工芸大学院芸術研究科メディアアート修了。

2006年に実在の風景を独特のジオラマ写真のように撮影した写真集『small planet』（リトルモア刊）で木村伊兵衛写真賞を受賞。近年は、作品制作を続ける傍ら、全日空の機内誌「翼の王国」で連載するなど、幅広く活躍。主な展覧会に「plastic nature」nap gallery（東京、2015）、「東京 I Tokyo」キャノンギャラリーS（東京、2016）など。主なパブリックコレクションに、東京都写真美術館（東京）、ヒューストン美術館（テキサス、アメリカ）、メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）など。



展覧会の見どころ

1. 初の大規模個展、これまでに制作されたシリーズ作品を一挙に公開

生まれ育った場所や世界に不思議な違和感を覚え、この世界を知りたい、俯瞰したいという思いが本城直季の作品制作の動機であり原動力となっています。そこから、本城の眼差しは、まちのみならず、学校、公園、工業地帯、森、サバンナなど、様々な場所へ向けられていきました。本展覧会では、アオリを利用した独自の技法を生み出すまでの試行期の作品から木村伊兵衛写真賞を受賞した「small planet」シリーズ、そして、そこから派生していった数々のシリーズ作品を一挙に紹介します。



《Tokyo, Japan》, 2005
(small planet シリーズより)



《after class, basketball》, 2003
(small garden シリーズより)



《forest, Hokkaido》, 2015
(plastic nature シリーズより)

©Naoki Honjo

2. 「kenya」「industry」「tohoku 311」シリーズ作品を初公開

人工的な違和感を覚えたサバンナを捉えた「kenya」シリーズ、地上からはその世界を知ることはできない工業地帯を覗いた「industry」シリーズ、東日本大震災発生から3カ月、思わずヘリコプターで向かい撮り下ろした「tohoku 311」シリーズ。様々な思いが本城を作品制作に駆り立ててきました。本展覧会では、これらのシリーズ作品を初めて公開します。



《giraffe》, 2008
(kenya シリーズより)



《open pit mining, Fukuoka》, 2008
(industry シリーズより)



《Rikuzentakata, Iwate》, 2011
(tohoku 311 シリーズより)

©Naoki Honjo

3. 市原市の撮りおろし作品 10 点を公開

美術館のある市原市を撮り下ろした作品 10 点公開します。本城は本展覧会への出品のため、このコロナ禍に市原市を上空から撮影しました。本城の目を通して見る市原市からは、普段とは違うまちの姿を感じていただけるでしょう。



展覧会図録

本城直季	(un)real utopia
編集	朝日新聞社 井出幸亮
寄稿	飯沢耕太郎（写真評論家） 藤森照信（建築史家、建築家） ポール・スミス（ファッションデザイナー） 武内厚子（東京都写真美術館 学芸員）
翻訳	サム・ベット 永井佳子
校閲	山根隆子 メアリー・マージ・ロッカー
装丁	米山菜津子
印刷・製本	サンエムカラー

関連イベント情報**オープニング記念トーク**

ブックショップ [UTRECHT] の代表から蒸留家に転身し、市原市の隣、大多喜町の森の中で薬草園蒸留所を展開する江口宏志さんをゲストにお迎えし、本城さんの写真の魅力、本城さんの写真から見えてくる中房総の“不思議”について語り合ってください。

日時：2020年11月7日（土）13：00～14：15

出演：江口宏志（蒸留家/mitosaya 代表）、本城直季

会場：市原湖畔美術館 多目的ホール

会費：1,000円（入館料別途）※事前申込制

ワークショップ「本城直季の写真に写る日」

大判カメラ（インスタントフィルム）を使用して、本城さんのミニチュアのような作品世界に参加者が入り込んだ写真を撮影します。

日時：2020年11月15日（日）※雨天決行、荒天中止

時間：午前の部 10：30～12：30、午後の部 13：30～15：30

講師：本城直季

定員：午前、午後それぞれ10組（1組2名まで）※事前申込制

参加費：1組1,000円（プリント代、後日郵送代含む。入館料別途）

※イベントの詳細、申込は市原湖畔美術館ホームページをご覧ください。

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更、中止となる場合がございます。

ご来館のお客様に下記のご協力をお願いをしております。

- ・ご入館にあたり、来館者の皆さま（グループの代表者1名）の連絡先（お名前、お電話番号）を頂戴しております。
- ・館内では、マスク着用のご協力をお願いいたします。
- ・こまめな手洗いにご協力をお願いします。
- ・咳やくしゃみをされる際は、マスク、ハンカチ、ティッシュなどで口をしっかりと覆う「咳エチケット」にご協力ください。
- ・発熱、咳などの風邪症状がある方や、体調に不安がある方は、ご来館をご遠慮ください。
- ・混雑状況によっては、入場制限をする場合がございます。



広報用画像



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13

1. «Tokyo, Japan», 2005(small planet シリーズより)
2. «Nakayama Racecourse, Chiba, Japan», 2005(small planet シリーズより)
3. «Tokyo, Japan», 2002(small planet シリーズより)
4. «line dance», 2006(treasure box シリーズより)
5. «giraffe», 2008(kenya シリーズより)
6. «after class, basketball», 2003(small garden シリーズより)
7. «Taito-ku, Tokyo», 2011(LIGHT HOUSE シリーズより)
8. «beach», 2005(play room シリーズより)
9. «forest, Hokkaido», 2015(plastic nature シリーズより)
10. «open pit mining, Fukuoka», 2008(industry シリーズより)
11. «Rikuzentakata, Iwate», 2011(tohoku 311 シリーズより)
12. «Ichihara, Japan», 2020(small planet シリーズより)
13. «Ichihara, Japan», 2020(small planet シリーズより)

©Naoki Honjo



アクセス

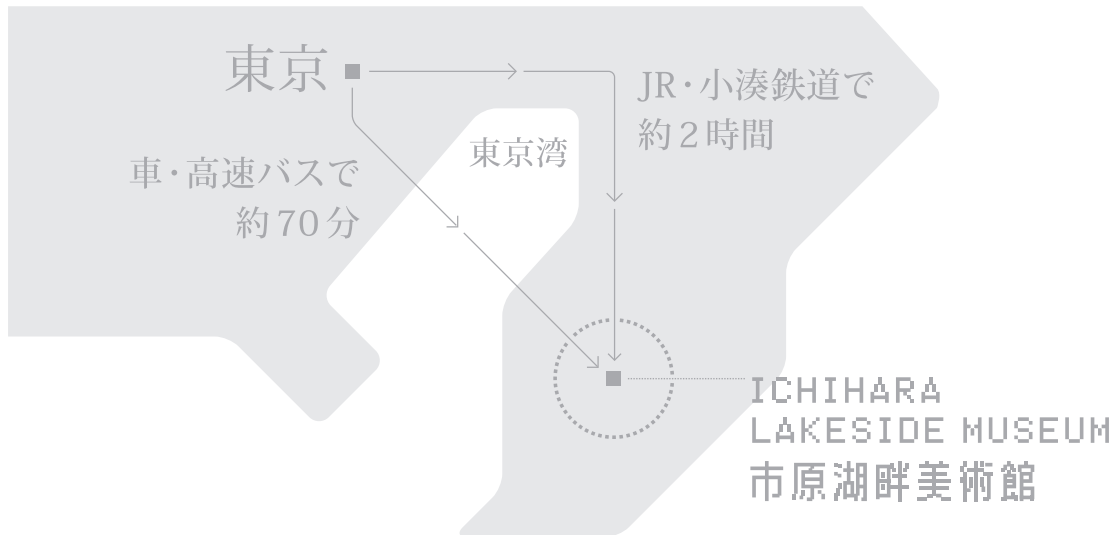
所在地：〒290-0554 千葉県市原市不入 75-1

鉄道で：JR 内房線五井駅乗り換え 小湊鉄道「高滝」駅より徒歩 20 分 / レンタサイクル 10 分 / タクシー 5 分

お車で：圏央道「市原鶴舞 IC」より約 5 分

高速バスで：東京駅・羽田空港・横浜駅より約 1 時間

(市原鶴舞バスターミナルよりタクシー 約 5 分)

**広報についてのお問い合わせ**

市原湖畔美術館 本山・富樫

tel : 0436-98-1525 fax : 0436-98-1521

press@lsm-ichihara.jp www.lsm-ichihara.jp

美術館の SNS では、美術館や展覧会情報を配信しています。

Facebook : @ichiharalakesidemuseum

Instagram : @lsm_ichihara

Twitter : @LSM_ICHIHARA

